NHK大河ドラマ『天地人』 直江兼続の弟、

大国（おおくに） 実頼（さねより）

2009年大河ドラマ『天地人』の登場人物に、川西町にゆかりの深い武将として、直江兼続の2歳年下の弟・大国実頼があげられます。

大国実頼は、関ヶ原の合戦後、兄兼続と対立して高野山へ隠遁し、兼続の没後、ひそかに米沢北郊の中小松村（現在の川西町大字中小松付近）に戻り、元和8年（1622年）に同地で61歳の生涯を閉じました。

大国実頼の生涯

永禄5年（1562年） 樋口惣右衛門の次男として生まれ、幼名は与七。兄与六（兼続）の2歳年下。御館の乱（景勝と景虎の家督争い）では上杉景勝方として戦い、天正10年（1582年）天神山城主小国氏の家督を相続しました。豊臣秀吉の聚楽第完成のときには上杉家の賀使者を務め、それ以降頻繁に上洛し、京で開かれる連歌会に数多く参加しました。このとき姓を改め、大国但馬守実頼を名乗りました。天正19年（1591年）には、連歌師里村紹巴の催す連歌会に度々参加し、風雅の席で秀吉配下の武将と交流して上杉家の外交を支えました。実頼は『米府侍組由緒』に「能書、連歌の上手」と評されています。

慶長3年（1598年） 上杉景勝の会津移封に際し南山城代とし2万1000石を与えられ、上杉家中で兼続に次いで3番目に多い知行を得ました。慶長5年（1600年）景勝が徳川家康と対立して会津に神指城を築城したとき、兄の兼続と共に普請奉行を務めて功を挙げています。

関ヶ原の合戦後、羽前高畑城7000石の城代となったが城には移らず、京に滞留しました。慶長7年（1602年）2月27日、兼続や前田慶次ら上杉家中の27人と亀岡文殊堂奉納詩歌会を催した後、慶長9年（1604年）に実兄直江兼続と本多政重との養子縁組に反対し、以後、高野山に隠遁しました。兼続の没後、米沢北郊の中小松村に戻り、元和8年（1622年）2月9日、61歳で死去。米沢の徳昌寺に葬られました。墓は後に改葬され、現在は関興庵の大国家墓所にあります。（『大国家系譜』に基づいて作成しました。）

大国実頼（樋口与七）略年表

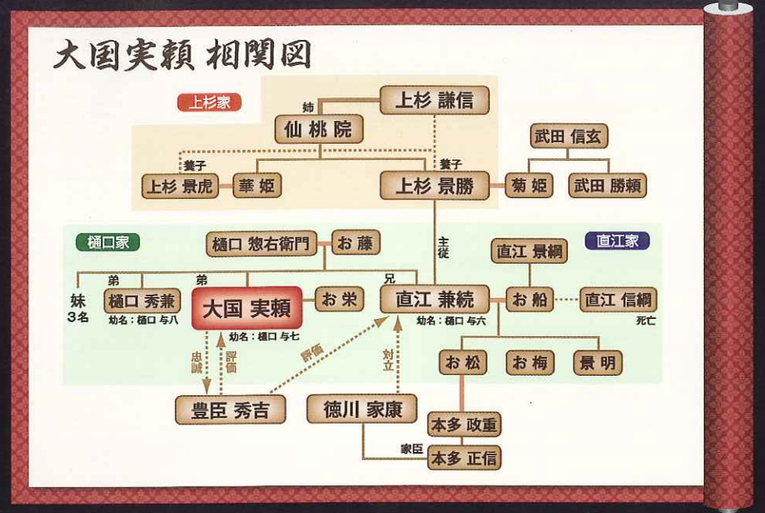
- 永禄　5年（1562）
  越後上田庄樋口家に二男として出生。幼名与七。
- 天正　6年（1578）
  上杉謙信死去。兄兼続とともに御館の乱を戦う。
- 天正 10年（1582）
  天神山城主小国家を相続し、新発田討伐に参陣。
- 天正 15年（1587）
  上洛し秀吉に謁見。大国と改姓。但馬守を賜る。
- 天正 19年（1591）
  京屋敷に滞在し里村紹巴の連歌会に出席する。
- 慶長　3年（1598）
  会津南山城2万1千石の城代となるが京に滞留。
- 慶長　5年（1600）
  神指城築城の奉行を務め、家康との戦に備える。
- 慶長　6年（1601）
  出羽高畠城7千石の城代となるが京に残留。
- 慶長　7年（1602）
  出羽亀岡文殊堂にて兼続らと詩歌会を開く。
- 慶長　9年（1604）
  兼続と対立し、京より出奔して高野山へ隠棲。
- 元和　6年（1620）
  兄直江兼続の没後、米沢郊外の中小松村へ戻る。
- 元和　8年（1622）
  中小松村にて没。享年61。米沢徳昌寺に葬る。

詩歌会が開かれた亀岡文殊堂（高畠町）

亀岡文殊堂奉納詩歌（実頼は右から6番目）

関興庵（米沢市）にある実頼の墓（中央）

大国実頼 相関図



やまがた川西ダリヤ園

見頃 9月～10月

4ヘクタールの敷地に650種
50000本のダリヤが咲く

川西産新品種ダリヤ「愛」

大国実頼イメージダリヤ「詩集」

天地人コーナー
直江兼続・大国実頼・上杉景勝ほか天地人登場人物をイメージしたダリヤを集めたコーナーが園内に登場

INFORMATION

- ●開園期間
  8月から11月上旬（期間中無休）
- ●開園時間
  9:00～18:00（10月以降は日没閉園）
- ●入園料　※団体割引有
  大人/520円　子供/(小学生)210円
- ●駐車場
  150台収容　大型バス可
- ●アクセス
  羽前小松駅より車で5分
  （上杉神社から車で30分）

INFORMATION

国内屈指の
中国陶磁器コレクション

掬粋巧芸館

上杉家に仕えた前田慶次、
甘糟景継の甲冑を特別公開中
（2009年11月末まで）

❖月曜休館　❖入館料：大人600円

お問合せ先
樽平酒造（TEL0238-42-3101）

ACCESS

お問い合わせ

緑と愛と丘のあるまち 川西町

川西町産業振興課 TEL 0238-42-6645 ｜ 川西町観光協会 TEL/FAX0238-42-2112

〒999-0193 山形県東置賜郡川西町大字上小松 1567

[川西町役場 HP] http://www.town.kawanishi.yamagata.jp

[川西町観光協会] http://www.lavo.jp/dahlia/

2009年大河ドラマ「天地人」

天地人時代の川西町

まちあるき歴史マップ

直江兼続の実弟

大国実頼（おおくにさねより）

義を貫き通した上杉家の戦国武将が小松にいた

山形県川西町

天地人時代の小松
まちあるき歴史マップ

天地人の時代（戦国時代末期から江戸時代初期）から残る川西町小松地区の史跡を中心に紹介します。
川西町に残る最古の絵地図と現在の地図を見比べながら歴史のまちあるきに挑戦してみてください。

上杉家のナンバー3大国実頼が晩年を過ごした川西町・小松

川西町の中心市街地である小松地区は、東西に越後街道、南北に下長井街道が交差する交通の要衝の地として栄え、農、商、文化など多方面に及んだ宿場町の繁栄の歴史を今日に伝えています。

慶長5年（1600年）9月9日、山形城の最上義光攻めへ出陣した直江兼続率いる2万の上杉軍が、小松に一泊していきました。また、京に長く暮らし、連歌の名人と評された直江兼続の実弟、大国実頼が晩年に居住し、元和8年（1622年）に生涯を閉じた地でもあります。

1 龍泉寺跡（りゅうせんじあと）

龍泉寺は、小松の西方に位置する添川村（飯豊町）の曹洞宗喜雲寺の末寺で、明治初期に廃寺となりました。添川村には、越後から移った直江、大国、樋口家の家臣が住み、彼らは喜雲寺を菩提寺としました。添川喜雲寺との関わりから、中小松の龍泉寺が、大国実頼晩年の隠棲地である可能性が指摘されています。

2 亀森山天満宮跡（かめもりやまてんまんぐうあと）

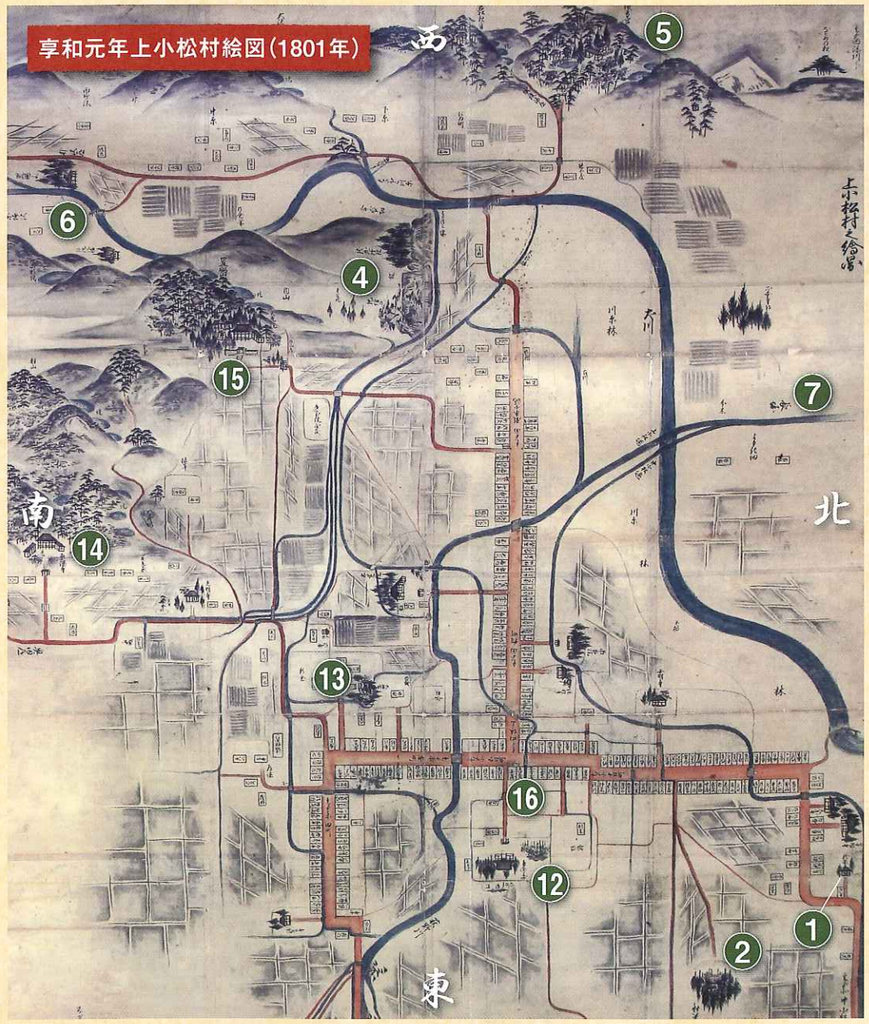
東北地方最大級の前方後方墳・天神森古墳があります。明治時代まで墳丘上に天満宮があり、小松城主や、上杉綱勝の社殿寄進が記録されています。天満宮は、中世に連歌の神様として信仰を集めました。敷地内にあるひょうたん池の水で墨を磨ると字が上達すると伝えられています。平成6年、天満宮の神輿が復活し、毎年7月に町内をめぐります。

3 小松城跡（こまつじょうあと）

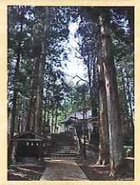
連郭式の平城で本丸跡が残ります。鎌倉時代に船山因幡守によって創建され、のち伊達家臣大町氏が支配し、次に宿老奉行桑折景長、牧野久仲が城主に入りましたが、元亀元年（1570年）中野宗時の乱により廃城となりました。主な家臣が京へ頻繁に往来した伊達家中では、能、連歌、茶などの風雅な嗜みが好まれました。越後街道の玄関口に当たる小松城は、外交拠点の役割を担い、城主には、連歌を嗜む文武兼備の重臣が置かれていました。

4 原田城跡（はらだじょうあと）

伊達家臣原田氏の居城。天正19年（1591年）まで使用されました。最後の城主原田宗時は、大河ドラマ『樅の木は残った』の主人公・原田甲斐宗輔の祖父に当たります。原田宗時の死に際し、伊達政宗が六首の和歌を献じました。川西ダリヤ園に隣接し、春の桜やハーブ園などが楽しめます。



5 諏訪神社（すわじんじゃ）



創立は奈良時代にまで遡り、平安時代の国史『日本三代実録』に記されます。長井氏、伊達氏、上杉氏の代々領主の崇敬篤く、参道には樹齢200～300年の見事な杉並木を見ることができます。

6 片倉館跡（かたくらたてあと）

片倉小十郎で有名な伊達家臣片倉氏の居館跡です。伊達政宗の右腕として活躍した片倉小十郎景綱が幼少期を過ごしたと伝えられます。

7 長堀堰（ながほりぜき）

大国実頼の没から3年後の寛永2年（1625年）島貫源兵衛により着工され、20年の大工事を経て完成しました。長年に渡り田畑を潤す重要な水脈となり、宿場町小松の発展を支えました。

8 千松寺（せんしょうじ）

真言宗の古刹。近くには藩政時代の肝煎の屋敷が残り、神社や蔵のある農家が立ち並び歴史的景観を伝えています。上杉時代の横徒であった佐野千松は、慶長5年に2100石もの高禄を知行しました。

9 掬粋巧芸館（きくすいこうげいかん）

昭和7年に創立され、中国、朝鮮、日本、南方の鑑賞陶磁を多数展示。前田慶次、甘糟景継所用の甲冑を特別展示しています。主人の樽平酒造は、元禄期の創業で越後杜氏から受け継いだ酒屋唄を伝えます。

10 仏成寺（ぶつじょうじ）

時宗の寺院。伊達家臣桑折景長の菩提寺。中世に連歌会が栄えた会津東明寺の末寺として、連歌を嗜んだ小松城主の中興を受けました。上杉時代には、大国実頼が催した慶長7年の亀岡文殊堂奉納詩歌会に、会津東明寺の僧が参加した関わりがあります。

11 陽源院（ようげんいん）

曹洞宗。米沢藩の主要産業であった青苧の商人金子家の菩提寺。上杉鷹山の治世に、細井平洲の門弟となって活躍した文人・金子伝五郎の墓があります。

12 常念寺（じょうねんじ）

浄土宗。神亀5年（728年）開山の歴史があります。ご本尊は伝聖徳太子作とされ、近隣の村から参詣者を集めました。慶長19年（1614年）伊達政宗が当寺に一泊し、故郷の置賜を懐かしむ和歌を詠みました。

13 皇大神社（こうたいじんじゃ）

伊勢神宮信仰のため江戸初期に創建され、米沢東町神明宮の蔵田御師によって守られました。蔵田家は越後時代に春日山城留守居役、甲州への塩輸送など、上杉謙信の活躍を支える重要な役目を担いました。当神社では近世に俳諧・川柳の句会が盛んでした。この1801年の絵地図は皇大神社に伝わっているものです。

14 東陽寺（とうようじ）

曹洞宗。伊達家臣原田氏の菩提寺。原田氏は九州大宰府に流された菅原道真の子孫の一族を名乗ります。原田家寄進の山門や、原田家先祖の供養碑「石造九重層塔」一対などが現存します。

15 大光院（だいこういん）

1200年の歴史を持つ真言宗の古刹。置賜山と呼ばれ、弘法大師の高弟・真済僧正の入寂地の由緒を有します。伊達氏、蒲生氏、上杉氏の代々領主の崇敬篤く、地域の人々から深く信仰されました。毎年8月に小松豊年獅子踊りが奉納されます。

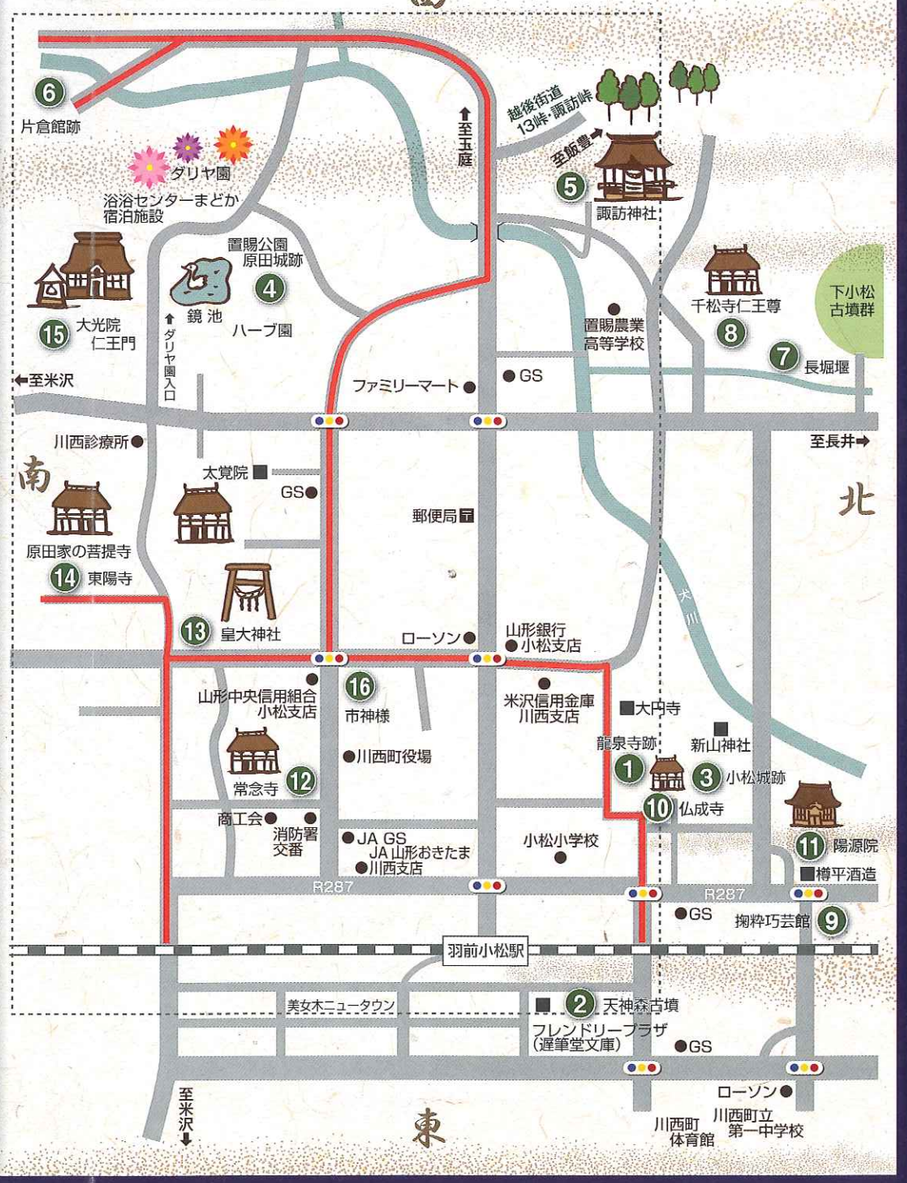
16 市神様（いちがみさま）

宿場町として栄えた五日町の商売発展を祈る神様です。天明3年（1783年）正月吉日と刻まれています。

天地人と川西町
直江兼続、前田慶次の菊の宴

慶長5年（1600年）9月、米沢城の直江兼続は、北方の敵である山形城主・最上義光を討つべく軍議を図った。9月8日、先発の将として春日元忠、上泉主水泰綱が出発。翌9日、兼続自ら率いる主力が米沢城を出陣した。総勢2万数千の上杉軍は、下長井街道を進み、9日の夜、小松に一泊した。この日は中国の故事に由来する重陽の節句（菊の節句）菊を眺め、菊の酒を飲んで長寿を願う習慣がある。戦へ向かう一時、直江兼続、前田慶次ら諸将が、華やかな宿場町小松で菊の酒に酔ったのだろうか。翌朝出発した上杉軍は、13日に最上軍が守る畑谷城を攻め落とし、15日に長谷堂城の激戦に突入していった。関ヶ原合戦の知らせが届くまで、出羽の戦場では、上杉と最上、それぞれの勝利を信じた戦いが続けられていった。

新潟市岩室温泉観光協会
大国実頼キャラクター
『みらいくん』と『おえいちゃん』

現在の小松地図

今も残る江戸時代からの道
享和元年上小松村絵図の範囲